
星の天秤

うな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の天秤

【Nコード】

N7527X

【作者名】

うな

【あらすじ】

「最後に何が残るんだろう。私はこの手に何を握めるんだろう。何がすり抜けるんだろう。最期の瞬間まで何を握ってられるんだろう」冬の夜に少女は歌う

失くす度に振り返って、手に入れる度に天秤にかける。

自分は何者であるのか。あるいは、何者になるうとしてしているのか。子供の頃、夜と朝が一続きに繋がっていると始めて知った時からずっと考えている。

「最後に何が残るんだろう。私はこの手に何を掴めるんだろう。何がすり抜けるんだろう。最期の瞬間まで何を握っていられるんだろう。」

それは問。答えが出る頃にはもう手遅れになっている類の、正答不可能な難題だ。

「12月の空。雪の温度。ベルの音」

後悔は永遠に終わることがない。振り返っても喚いても、嘆いても泣き叫んでも後悔はいつまで経っても後悔のまま。

「アスファルトの匂い。車の歌声」

夜空。一人で仰ぐ冬の空は怖いぐらい澄んでいて、遠く距離を隔てた星星が今にも落ちてきそうな錯覚を覚える。

分かっている。手を伸ばしても届きはしないと。それでも伸ばさずにいられない気持ちはじくじく痛む胸の辺りからとめどなく送られ続けている。

「終わりまで続く道。どこかで落とした金色のコイン」

冷たい風。夜の硬質な空気。どこから来てどこへ行くのか、ヘッドライトとテールライトが闇を裂きながらばらばら走り抜けていった。

「あー、あー。らーらーらー」

銀の音色を空へ。物憂げにリリックを紡いでいた唇がそっと歌いだす。

それは後悔の歌。冬の歌。願いを捧ぐ星の歌。

「最後に何が残るのだろうか？」
「私は何を掴めるんだろう？」
「何がすり抜けるんだろう？」
「最後の瞬間まで何を握っていられるんだろう？」
「12月の空。雪の温度。ベルの音」
「アスファルトの匂い。車の音色」
「終わりまで続く道。どこかで落とした金色のコイン」
「望むのは星の天秤。空に願った二者択一」
「さあ、どうぞ。煮るも焼くもお好きなままに。あなたの願いを叶えましょう」

風が髪を揺らした。歌声は静かに空へ消え、誰の耳にも届くことはない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7527x/>

星の天秤

2011年10月20日02時10分発行